

○高見 圭司・大久保裕行*・山崎修一*・竹下 稔・古屋成人・高浪洋一

大分県のニガウリに発生したキュウリモザイクウイルスによるモザイク症状

Takami, K., Okubo, H., Yamasaki, S., Takeshita, M., Furuya, N. and Takanami, Y. : Occurrence of Mosaic Disease in Balsam Pear (*Momordica charantia* L.) Infected with *Cucumber mosaic virus* in Oita.

2003年に大分県において、CMVによるとみられるニガウリ展開葉の退緑小斑点およびモザイク症状が確認された。本年も同地域での発生が認められたため、病原ウイルスの諸性質について更に検討を行った。罹病葉の粗汁液を用いた接種試験では、タバコ(*Nicotiana tabacum* cv. Xanthi-nc)に全身モザイクが生じ、ササゲには局部えそ斑が形成された。また、タバコの全身感染葉の粗汁液をニガウリ幼苗に戻し接種したところ、全身病徴が再現された。さらに、罹病葉汁液を電子顕微鏡観察したところ、小球状ウイルス様粒子が観察された。タバコ感染葉の total RNA を用いて、CMV RNA3 特異的な RT-PCR を行うと、RNA3 特有の増幅産物が得られた。RNA3 の cDNA をクローニング後、5'末端領域の塩基配列を解析したところ、CMV であることが確認された。以上の結果から、本病は CMV 感染によるものと判断された。ニガウリの CMV によるモザイク病発生は、日本では未報告である。

(九大院農・*大分農林水産研安全)



図 大分県のニガウリに発生した CMV によるモザイク症状 (大分農林水産研安全原図)